

ト発

日本は世界一の「ペンギン大国」である。水族館にたくさんいるホンモノだけでなく、街を歩けば擬人化されたキャラクターがぞろぞろ。どうしてみんな、そんなにペンギンが好きなの？

なぜこんなに愛されるのか

ドアを開けると、真正面に巨大な水槽が。なかでは四羽のケープペンギンがテケテケ歩いたり、泳いだり、小屋に隠れたり。水槽の前のテーブルでは、若者たちがグラスを傾け、様子を見つめる。

池袋駅近くの「ペンギンのいるBAR」。沖縄の一号店に続き、昨年九月オープンした。マネジャーの大城信八さん(30)は「東京で、より多くの人に癒やしの場所を体験してほしいと思った」。五十五席の店は、週末ともなれば予約でいっぱいという。埼玉県川越市の大学生西本優貴さん(20)は



東京駅の人気土産

にぎわいを見せる「Suicaのペンギン」のグッズ専門店

ペンギン大国 日本

「ヨチヨチ歩くのがかわいい」とハイボール片手に目を細めた。土産店の激戦地、東京駅にはJR東日本のキャラクター「Suicaのペンギン」のグッズを集めた「Pens-ta(ペンスタ)」がある。十三平方メートルの小ぶりなスペースには、クリアファイルや筆記具、缶入りドロップなど六十〜七十種類の商品がぎっしり。週末は一日に二百人以上が訪れる。横浜市のアルバイト女性(20)はマグカップや鍋敷き、バッグなどを集めていて、この日はコップを購入した。「シンプルなお顔つきがかわいい」

飼育数は世界最多

日本人とペンギンの歴史

- 享保年間 舶来品として皮が持ち込まれる
- 明治~大正 南極探検隊が捕獲し、剥製を持ち帰る
- 1915年 生きたペンギンが上野動物園に初来日
- 45年 食料難などで国内からは1羽もいなくなる
- 戦後~ 捕鯨船が南極海から連れ帰るなどする。動物園で人気者に
- 1980年 スイスアニメ「Pingu」誕生。その後、日本にも関連グッズが続々と登場
- 2001年 JR東がSuica導入。キャラクターにペンギンを採用
- 02年 北海道・旭山動物園で「ペンギンの散歩」開始。冬季の名物イベントに
- 12年 江戸川区・葛西臨海水族園の「脱走ペンギン」が全国的ニュースに。82日後に保護

※上田一生さんの著書などから作成



ペンギンを見ながら食事が楽しめる「ペンギンのいるBAR」

池袋のバーに

敵する」と言う。

「破裂音「パ行」の首を頭に持ち、リスミカルに「ン」を反復する「ペンギン」という言葉が、年齢や性別を超えて日本人には心地よく響くのです」。言語への感受性の違いも、理由の一つかもしれないという。

さらに上田さんは「知人のコピーライターから聞いたんですけれど」と、こんな仮説も教えてくれた。

上田さんも、擬人化しやすいことを挙げる。「腕のような羽に、丸いおなか。赤ちゃんのようなヨチヨチ歩きに優越感や保護本能をくすぐられる」

日本は、世界最多のペンギン飼育数を誇る。日本動物園水族館協会の統計(二〇一二年末)では、加盟百五十一施設に三千五百四十九羽のペンギンがいる。飼育員や獣医師、ファンら約八百人でつくる「ペンギン会議」の研究者で、目黒学院高校教諭上田一生さん(50)は「欧州全体での飼育数に匹

敵する」と言う。南半球に生息し、日本にいなかったペンギンが、なぜ人気者になったのか。ペンギン研究本の著書もあるイラストレーター、いとう良一さん(50)は「直立二足歩行が人と共通する。キャラクター化しやすくかわいい」。

ただ、ペンギンの顔つきをよく見ると、むしろ鋭い印象だ。性格も、決しておとなしいわけではな

文・杉戸祐子／写真・佐藤哲紀、松崎浩一／紙面構成・宮本隆康